

ティーチング・ポートフォリオ

健康科学大学 看護学部 看護学科

教授 榎本 温

1. 目的

自己評価もさることながら、他の教育者と本学における教育の質を共有したいと考えます。

2. 教育哲学

学生が社会人として生きていくために、常識、教養、特に医療系である観点から、他人を思いやる心を育てたいと考えます。国家試験の合格レベルの知識をつけさせるのが目的の一つですが、それに偏りすぎずに、良い人間性を育てたいと考えます。

3. 教育経歴

1982年より、山梨大学医学部助手（現在の助教）として、学生教育、研修医の教育に携わり、1992年同大学助教授（現在の准教授）として、2008年まで勤務し、富士吉田市立病院院長のかたわら、昭和大学客員教授として、2017年まで学生と医師の指導をしてきました。その後富士吉田市立看護専門学校の校長として、看護学生の教育を行い、2020年4月より、本学の教授として、学生教育に携わっています。担当は主に麻酔科学で麻酔学会の指導医、ペインクリニック学会の専門医を有していました。

本学では、健康科学部において、臨床医学総論、薬理学を2年生に教えています。看護学部においては、疾病治療論を1年生と2年生に教えています。

4. レッスンプランや教材

健康科学部においては、Teams を活用して、スライドを中心に授業を行っています。課題の提出や過去の試験問題の提示など、学生が勉強しやすいように心がけています。看護学部においては、対面授業を行い、スライドを中心に、特に医療の動画などをたくさん盛り込むことによって、学生の学習意欲を高める工夫をしています。

5. 学生の評価

学生の評価は、両学部とも学生が Teams での回答をすることによってなされています。

ここに一例を示します。

実施年度	集計コード	担当教員氏名(代表)	科目名
2022	207001	樫本温	薬学

【集計結果】5…そう思う 4…ややそう思う 3…どちらともいえない 2…あまりそう思わない 1…そう思わない

設問	回答数							科目平均	全体平均
	5	4	3	2	1	無効	有効		
1 この授業の目標、到達点が明確に示されていた	12	3	3	2	0	0	20	4.3	4.5
2 シラバスの内容に沿って授業が進行していた	10	6	4	0	0	0	20	4.3	4.5
3 教員は成績の評価方法をオリエンテーションや講義中に説明した	11	4	4	1	0	0	20	4.3	4.5
4 教科書の選定、参考書の紹介、資料の配布は適切であった	8	5	4	2	1	0	20	3.9	4.3
5 板書やスライドの提示方法、内容、速度は適切だった	7	6	5	0	2	0	20	3.8	4.3
6 予習・復習についての指導、課題レポートの指示やフィードバックは適切だった	9	5	4	2	0	0	20	4.1	4.4
7 この授業は学生に興味を喚起し工夫されていた	8	4	6	1	1	0	20	3.9	4.3
8 質疑応答の機会や場が設けられ、質問に対して返答が得られた	8	5	5	2	0	0	20	4.0	4.3
9 この授業の学習内容のレベルは適切だった	9	3	6	2	0	0	20	4.0	4.3
10 他の授業科目との関連性が示されていた	9	5	4	2	0	0	20	4.1	4.4
11 この授業は通信量に配慮された講義内容だった	11	4	5	0	0	0	20	4.3	4.4
12 この授業は自分が期待していた授業内容だった	9	4	5	1	1	0	20	4.0	4.3
13 この授業は自分の将来に役立つと思った	7	5	6	1	1	0	20	3.8	4.5
14 授業を受講していく上でシラバスを活用した	6	3	7	1	3	0	20	3.4	3.9
15 予習・復習を含めた授業時間外にもこの授業に関連する知識の習得に努めた	7	4	6	2	1	0	20	3.7	4.0
16 与えられた課題やレポートに積極的に取り組み、提出期限を守った	13	4	3	0	0	0	20	4.5	4.6
17 この授業内容を全体的に理解することができ、興味や関心を持った	8	5	5	2	0	0	20	4.0	4.3
18									
19									
20									
総合	152	75	82	21	10	0	340	4.0	4.3

また、自由記載の個別評価があり、その回答が「全体の点数的には、去年より評価がよくなっているので、安心しました。個別評価でも好意的な意見が多かったので。良かったです。

{この授業では、授業で先生が喋る内容を録音されており、何故録音して、それを授業で流すのかがわからなかったです。} この回答としては、間違った内容がないのと、クラスの資料で講義がそのまま聞けるという利点があります。この学生に答えることができますか?」というものです。

5. 反省と更新

学生の疑問に対して、真摯に向き合い、学生が気楽に質問のできる環境を構築するのが急務と考えます。

ティーチングポートフォリオは、自身の教育実践に対する洞察を深め、キャリアの進化を記録する重要な手段です。これを通じて、教育の品質向上や将来の職務に役立てることができます。